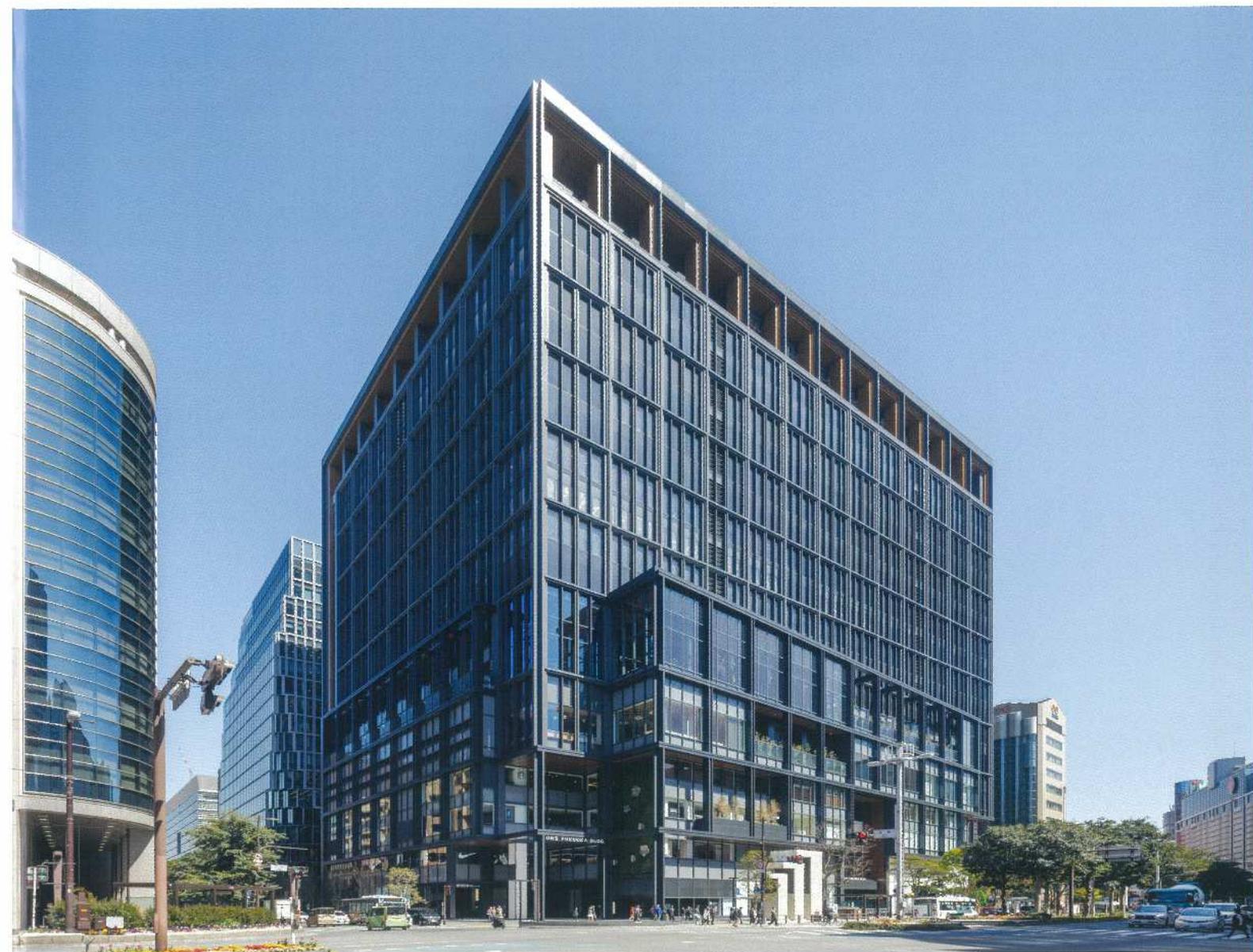


福電協会報

第96号



一般社団法人 福岡電業協会
2026.1

福電協会報

第96号

◀ もくじ ▶

会長挨拶	藤井 一郎	1
祝 辞	国土交通省九州地方整備局 局長 垣 下 禎 裕	2
	福岡県知事 服 部 誠太郎	3
	福岡市長 高 島 宗一郎	4
新年賀詞交歓会		5
施設紹介		
	ONE FUKUOKA BLDG.	7
技術レポート		
	電気設備工事におけるデジタルツール活用の効果と展望 eYACHO 導入事例報告	9
シリーズ〔職場訪問〕		
	西部電気工業株式会社	11
横顔紹介と随筆		12
写真コンクール(第45回)		14
シリーズ〔郷土〕	岡垣町	18
事業報告		
	令和7年度 福岡県総合防災訓練参加	22
	「技術講習会」を開催	23
	「技術見学会」を開催	24
	「実技講習会」を開催	26
令和7年度		
	国土交通省九州地方整備局営繕部 定例懇談会	27
令和7年度		
	九州地方整備局職員への出前授業	28
	令和7年度 電設業界説明会	29
	第101回福電協ゴルフ大会を開催	30
	第102回福電協ゴルフ大会を開催	31
	第30回福電協ボウリング大会を開催	32
委員会だより		
	総務委員会	33
	広報委員会	33
	技術委員会	34
	事業委員会	34
協会組織		35
会員名簿		36
役員名簿		39

表紙のことば

本建物は「天神を常に新しいビジネスと文化を生み出している場所にしていきたい。」とのコンセプトのもと、どちらか一方ではなく、そのどちらも追い求めたいと願う人達が交差する場をつくることとして建設された。

新年のご挨拶

一般社団法人 福岡電業協会

会長 藤井 一郎



新年、明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、我が国を取り巻く社会情勢は、トランプ政権による関税外交や、いまだ続いているウクライナ情勢など混迷の度合いを増しております。また、日本経済においては、10月に史上初の女性総理である高市内閣が発足し、責任ある経済・財政政策の実施方針を掲げております。しかしながら、電設業界では、資材価格の高騰、担い手不足、さらに近年の自然災害リスクの増大などの課題に直面しております。

そのような中で、昨年11月6日に広島にて、令和7年度日本電設工業協会の会員大会に、約520名が出席して開催されました。

大会では、行動する電設協として、「働き方改革を深化させ担い手確保に向けて業界の総力を挙げて取り組もう」をメインテーマとする大会決議を採択しました。

我々 電設業界は、いかなる状況下でも社会生活を維持するために必要不可欠な職業であります。昨今毎年のように発生する自然災害発生時にいち早く現場に駆け付け、電気の復旧を行い、経済活動の回復に貢献しています。

今後の活動を続けるには、人材の確保・育成が不可欠であり、働きやすい魅力ある職場環境が必要となり、そのためにも「働き方改革」を着実に深化させることが必要であります。

昨年度、福岡電業協会では、事業活動として、発注者である諸官庁、諸団体に対し、今後の問題点や課題を解決するために意見交換会を開催いたしました。また、技術向上のための各種講習会の開催や福岡県の防災訓練にも参加いたしました。

そして、「人材確保・育成」事業として、工業高校生を対象に現場見学会の開催・出前授業への参加や専門学校への電設業界説明会・意見交換会を実施し、施工管理などについて説明し、興味を持っていただきました。

今年度も、「業界の魅力発信と地域社会との連携」のため、現場見学会や出前授業、業界説明会などを通じ、次世代へ業界理解を深める活動を促進します。また、5年、10年先を見越し、「人材育成・確保」として、若手の育成、さらに女性活躍の推進や外国人の活用・拡大など多様な人材の確保を行っていきます。しかし、電設業界では、外国人の活用については、国家資格の取得が必要であり、言葉の問題も大きく、すぐに外国人を雇用することは、かなりハードルの高い状況下にあります。

電設協本部や関係機関、関係団体との連携を図りながら、新しい人材を迎え入れ、地域のインフラを支える技術者を育て、電設業界の持続的発展と社会的信頼の確立に努めてまいります。

課題は山積ではありますが、会員企業の皆様と、電設業界の成長・発展のため、「魅力ある、希望の持てる電設業界」を目指します。

今年の干支は、丙午（ひのえうま）の年です。馬が駆けるように、皆さまとともに力強く、着実に行動して参る所存です。

最後になりますが、会員各社のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 の 辞

国土交通省九州地方整備局

局長 垣 下 禎 裕



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、日頃より九州地方整備局の進める国土交通行政の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

九州は海に囲まれ、東アジアの中心に位置するため、古来より海外から人・物・情報を取り入れ全国へ伝えるゲートウェイの役割を担ってきました。今後もこの地理的優位性を活かし、アジアの経済成長を九州の産業発展に取り込むことは、日本の持続的な成長と発展に向けて重要です。一方で、自然豊かな地域である九州は、地形・地質・気象などの自然条件から多様な災害リスクを抱え、近年は気候変動の影響で豪雨による大規模災害が頻発しています。

近年では平成 29 年の九州北部豪雨、令和 2 年 7 月豪雨による球磨川流域や令和 3 年 8 月の前線停滞による九州北部での災害、令和 4 年 9 月台風 14 号、令和 5 年 7 月の梅雨前線による九州北部での災害、昨年 8 月の大雨による災害など、九州地方は毎年様々なところで大規模な水害に見舞われ、治水対策の強化は喫緊の課題です。従前からの施設整備に加えて全ての河川において、流域のあらゆる関係者が連携して減災・防災に取り組む「流域治水」を更に加速化させるとともに、昨年 6 月に閣議決定された「第 1 次国土強靱化実施中期計画」に基づき、気候変動に伴う気象災害への「適応」と「緩和」策の推進を図るとともにグリーンインフラの活用やインフラ老朽化対策についても推進していきます。

このほか、脱炭素社会実現に向けて、グリーントランスフォーメーション (GX) を推進します。

また、官庁施設の整備にあたっては、地域のまちづくりにも寄与しつつ、津波対策や災害時の電力確保対

策などに取組み、地域の安全・安心を確保した災害に強い良質な施設整備を目指してまいります。

一方で、高度経済成長期に集中的に整備されてきた道路、橋梁、上下水道、河川施設などのインフラが一斉に更新期を迎えています。こうした中、人口減少に伴う人材・予算の不足に加え、技術職員や建設業界の担い手・後継者の減少といった構造的な課題が、自治体のみならず業界全体に重くのしかかっています。こうした状況を踏まえ、九州地方整備局では、各自治体が抱える課題に対し、インフラメンテナンス国民会議やインフラメンテナンス市区町村長会議と連携しながら、具体的な支援を進めています。また、建設分野の生産性向上と働き方改革に向け、メタバースや AI、UAV などのデジタル技術を災害調査・査定、広報や住民説明会に活用し、組織横断的なノウハウ共有や人材育成を進めています。

建設産業は、社会資本整備の担い手であるとともに、災害時の復旧・復興を担う地域の守り手として、地域にとって欠かすことのできない産業分野であり、若者が希望を持って働き続けることができる業界となることが大変重要です。昨年 12 月に全面施行された第三次担い手 3 法の趣旨を踏まえつつ、地域の建設業の維持・発展のために、週休 2 日をはじめとする「働き方改革」や、CCUS の普及促進など建設業従事者の「処遇改善」、DX や ICT 施工などによる「生産性向上」に加え、現場のオートメーション化に向けた～i-Construction2.0 の取り組みとして、九州地方整備局としましても試行工事を実施しており、これらの取り組みを更に推進していく所存です。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして、実り多い年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 挨拶

福岡県知事

服 部 誠 太 郎



新年あけましておめでとうございます。皆さま方には、お健やかに輝かしき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、日頃から、電気設備工事の安全かつ適正な施工に向け、技術力や保安意識の向上にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

昨年は県知事としての2期目をスタートした年でもあります。1期目に引き続き、県民の皆さまの命、健康、生活を守ることを最優先に、一つ一つの施策を着実に、時には果敢に実行してまいりました。

令和8年4月からは10年ぶりに県庁の組織を再編します。これにより、職員一人ひとり、さらには組織としての力を最大化して、物価高などに対応する国の経済対策を最大限に活用して県民生活や事業活動をしっかり支えながら、先送りできない課題に真正面から取り組んでまいります。

そして、福岡県を九州、日本の発展を支えリードしていく「雄県」にするという志を持ち、未来への「礎」となる施策を展開してまいります。

まず、産業を育成し、県民の皆さまが活躍できる働く場を広げてまいります。

県内の雇用の8割を占める中小企業については、持続的な賃上げと適正な価格転嫁による賃金と物価の好循環を図るため、関係団体と連携し取引適正化に取り組めます。生産性や収益力向上を図るため、「福岡県中小企業DX推進センター」において中小企業のDX推進の取り組みを伴走支援します。

CIC Fukuoka内に設置した「グローバルコネクト福岡」を中心に、世界から投資家や企業を呼び込み、グローバルなスタートアップエコシステムの形成を推進し

てまいります。

技術の高度化が進む半導体分野では、設計・試作から評価・解析及び実証までをワンストップで提供する「福岡超集積半導体ソリューションセンター」を中心に、半導体後工程の先進技術開発を強力に支援してまいります。さらに、先進モビリティ・次世代電池の生産拠点形成と、全国初のEVバッテリーのリユース・リサイクル「福岡モデル」構築を進めてまいります。日産自動車の荻田町への生産移管を円滑に進めるため、県がリーダーシップを発揮し万全の体制を整えます。

そして、県民の皆さまの安全・安心な暮らしと健全な環境を守ってまいります。

本県では大雨による自然災害が毎年のように発生しており、地球温暖化に伴う気候変動の影響から命と暮らしを守る必要があります。地震の被害想定調査も踏まえ、今後起こり得る災害に備えてまいります。

また、身近なワンヘルスについて話し合う「ワンヘルス未来会議」から、県民の皆さまに自分ごととして取り組んでいただく提案をいただき、多くの県民の皆さまに「ワンヘルス」の取り組みを実践していただけるようにします。

今年も、馬が疾走するがごとく、さまざまな施策をスピード感をもって実行し、未来へと駆け上がる飛躍の年となるよう全力を尽くしてまいります。

そして、今後も愛するふるさと福岡県を、大人も子どももたくさんの笑顔で安心して暮らしていける県にしてまいります。

新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

年頭挨拶

福岡市長

高島 宗一郎



あけましておめでとうございます。新年の始まりにあたり、謹んでお慶び申し上げます。

一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、小中学校や公民館、市民センターなど、市民生活に不可欠な公共施設の整備やメンテナンスにご尽力いただくなど、日頃より福岡市政の推進にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、福岡空港に新たな滑走路が整備され、また、天神ビッグバンでは多くのビルが完成を迎えるなど、福岡市の勢いを実感できる一年でした。

この勢いは結果にも表れており、福岡市の人口は167万人を超え、人口増加数及び日本人増加数は全国1位となっています。また、市税収入も過去最高を更新、地価の変動率は13年連続上昇するなど、日本で一番元気な街として着実に成長を続けています。今年もこの流れをさらに加速させ、次世代に誇れる未来を築く一年とすべく、様々なチャレンジに取り組めます。

天神ビッグバンは、プロジェクト開始から10年が経ちました。当初の想定を大きく上回る規模で進行し、都心部では最先端のビルが次々に誕生しています。これから、天神ビッグバンは後半戦へ突入し、複数街区にまたがる大型の計画も動き出します。博多コネクティッドにおいても、先進的なビルへの建替えが着実に進んでおり、都市機能の一層の充実が図られます。新しく生まれたビルに高付加価値なビジネスを呼び込み、若い世代が自己実現できる舞台を増やすことで、福岡を「より大きな夢が叶うまち」へとアップデートさせていきます。

この生まれ変わる街に花や緑、アートといった付加価値を取り入れていきます。今年にはPark-PFIを活用した魅力的な公園が続々オープンするなど、緑に親しみ、憩える空間が広がります。3月には「Fukuoka

Flower Show2026」を開催し、会場の植物園に加え、商業施設や店舗にもご協力いただき、街なかを花で彩ります。さらに、アートあふれる街を目指して、「Fukuoka Art Next」を推進していきます。

このほか、身近な自然の魅力を高める「Fukuoka East & West Coast」や「Fukuoka Green NEXT」、水辺を生かしたまちづくり「リバーフロントNEXT」など、都市の多彩な魅力を高めるプロジェクトも進めていきます。

市民の皆さま一人ひとりの生活の質の向上にもしっかりと取り組んでいきます。子育て世帯の負担軽減や教育環境の向上、何歳になっても自分らしく暮らせるまちを目指すプロジェクト「福岡100」などを推進していきます。

また、昨年5月には「交通マスタープラン」を策定しました。交通は、市民生活や都市活動を支える重要な都市インフラであり、マスタープランは、都市の将来像を形づくる大変重要な指針となります。市民生活の向上と都市の成長の双方に大きな恩恵をもたらす、福岡の持続的な発展のカギとして、着実に前へ進めてまいります。

今、日本は人口減少など様々な社会課題に直面しています。これからも都市を成長させていくためには、これまで以上に柔軟でスピード感のある対応が求められています。社会構造が目まぐるしく変化する今だからこそ、柔軟に、しなやかに、挑戦を続ける都市でありたいと考えています。「人」、「環境」、「都市活力」がより高い次元で調和したアジアのリーダー都市を目指して、福岡市は2026年も変化を恐れず、新たなチャレンジを続けていきます。

最後に、みなさまの今年1年のご健勝とご活躍を心から祈念し、新年のあいさつとさせていただきます。

令和8年 新年賀詞交歓会

一般社団法人 福岡電業協会



(一社)福岡電業協会として「新年賀詞交歓会」が、令和8年1月13日(火)ソラリア西鉄ホテルにて開催された。

当日の来賓として、国土交通省九州地方整備局、経済産業省九州産業保安監督部、防衛省九州防衛局、独立法人 都市再生機構九州支社、福岡県、福岡市、福岡市議会等から多数出席頂き、正会員および賛助会員も併せて約200名の参加を得て開催された。

まず主催者を代表して、藤井会長より、激動の令和8年が始動している。今後の活動を続けるには、人材確保・育成が不可欠であり、働きやすい魅力ある職場環境が必要である。そのためにも「働き方改革」を着実に進化させることが必要である。協会と

しても、課題は山積みであるが、会員企業の皆様と、電設業界の成長・発展のため、「魅力ある、希望の持てる電設業界」を目指しますとの挨拶があった。来賓を代表して、九州地方整備局 垣下局長の代理として西尾営繕部長が、近年は気候変動の影響や豪雨の影響で大規模災害が頻発しています。治水対策の強化は喫緊の課題であり、気候変動に伴う気象災害への「適応」と「緩和」策の推進を図るとともにグリーンインフラの活用やインフラ老朽化対策についても推進していきます。昨年12月に全面施行された第三次・担い手3法の趣旨を踏まえつつ、地域の建設業の維持・発展のために、週休2日をはじめとする「働き方改革」や、CCUSの普及促進など建設業従事者の「処遇改善」、DXやICT施工などに

新年賀詞交歓会

よる「生産性向上」に加え、現場のオートメーション化に向けたi-Construction2.0の取り組みとして、九州地方整備局としましても試行工事を実施しており、これらの取り組みをさらに推進していきますとの挨拶があった。

続いて、福岡県服部知事の代理として、荒木建築都市部営繕設備課課長より、県では職員一人ひとり、さらには組織としての力を最大化して、物価高などに対応する国の経済対策を最大限に利用して県民生活や事業活動をしっかりと支えながら、先送りできない課題に真正面から取り組んでまいります。そして、福岡県を九州、日本の発展を支えリードしていく「雄県」にするという志を持ち、未来への「礎」となる施策を展開してまいります。様々な施策をスピード感を持って実行し、未来へと駆け上がる飛躍の年となるよう全力を尽くしてまいりますとの挨拶があった。

結びに、福岡市高島市長の代理として、財務局竹下理事より、福岡市の人口は、167万人を超え、人口増加数及び日本人増加数は全国1位となっていま

す。また、税収収入も過去最高を更新、地価の変動率は13年連続上昇する等、日本で一番元気な街として着実に成長を続けています。今年もこの流れをさらに加速させ、次世代に誇れる未来を築く1年とすべく様々なチャレンジに取り組めます。また、「人」「環境」「都市活力」がより高い次元で調和したアジアのリーダー都市を目指して、福岡市は令和8年も変化を恐れず、新たなチャレンジを続けていきますとの挨拶があった。

引き続き米賓紹介の後、経済産業省九州産業保安監督部松尾産業保安監督管理官により、厳粛な中での乾杯のご発声で祝宴となった。

各会員が和気あいあいの雰囲気の中で、ご来賓の皆様と新年の挨拶や会員相互の懇親を深め、予定時間があつという間に過ぎ去り、中締めの日となった。

最後に、福岡電業協会桧原副会長よりご参加及び運営の御礼、また、これからの難局を乗り越えるため会員や関係各所と頑張っていきたいとの挨拶があり、万歳三唱を行い、盛会裏に終了した。

